

## 北沢猛先生の業績を思う —アーバンデザイナー・北沢猛氏の軌跡

### Think of the Urban Designer Takeru Kitazawa's Achievements

3月14日(日)、本郷キャンパス11号館講堂において、北沢猛先生の業績を思う会が開催され、多数の方々  
が来場されました。会場に入りきれないほどの来場者が訪れ、会は大盛況のうちに終わりました。

An event on thinking of the achievements of Professor Takeru Kitazawa was held at the auditorium of Building  
No.11,Hongo Campus on 14th March. There was a large audience exceeded our expectations that all of them  
can't enter the hall. It was a great success.

text\_abe



▲臨時的2階席まで埋まる満員の会場



▲東京大学より退官記念メダルの贈呈



▲思い出を語る大方先生

### 軌跡を辿る

各時代で北沢先生と共にプロジェクトを進められた方々がその  
実践を紹介し、北沢先生の軌跡を辿りました。

#### ▼横浜市での実践から(国吉直行氏/鈴木伸治氏)

都市デザイン室時代当初から歴史部門を担当し、歴史的な保全  
を現在に活用することを志向していたこと、創造都市構想を推  
進されたことが紹介されました。

#### ▼NPOでの実践から(土井一成氏)

都市の空間デザインを「空間×時間×人間」で考え、人を巻き込  
み組織化し、未来社会の設計を目指すアーバンデザイン研究体  
を設立し、アーバンデザインムーブメント(UDM)を興されたこと  
が紹介されました。

▼東京大学での実践から(遠藤新氏/野原卓氏/前田英寿氏)  
岩手県大野村、福島県喜多方市での地域を巻き込んだプロジェ  
クト、UDCKの開設から始まるアーバンデザインセンターによる  
新たな都市デザインの実践手法の萌芽が紹介されました。

### 思い出を語る

軌跡に続き、各界の方々が北沢先生との思い出を語られまし  
た。日本に留まらない台湾や韓国での活躍や学生時代にフェ  
ンシング部の主将として活躍されたこと、大方先生を都市計画  
コンサルのアルバイトに引き込んだこと、院試でドイツ語に失  
敗したこと、川越の歴史保全地区を対象地として卒業設計を  
されたこと等、知られざる一面を垣間見ることが出来ました。  
先生は、仕事に適切な人を見つけて来ては、仕事が達成される  
頃には次の段階を見据えて、先に進んでしまわれている、その  
ような人を上手く巻き込む天賦の才をお持ちであったというこ  
とが数々のエピソードを通じて伝わって来ました。

### これからのアーバンデザイン

北沢先生のメッセージには、現場での実践も重要だが、都市の  
将来のビジョンも思い切って提示してみることも大切であるこ  
と、いかに地域密着型の人を巻き込むセクションを構築するの  
かということ、環境と都市をいかに結びつけるのかということ  
がこれからは求められて来ることが述べられていました。アー  
バンデザインの概念を拡張する必要、その新たな実践の場とし  
てのアーバンデザインセンターがあること、我々がその遺志を  
継ぎ、残された宿題に取り組まねばならないと感じました。

北沢猛  
先生の紹介

#### ■経歴

- 1977年 東京大学工学部都市工学科卒業  
横浜市企画調整局都市デザイン・チーム
- 1984年 横浜市都市計画局都市デザイン室係長
- 1986年 任意団体アーバンデザイン研究体(UDM)設立・副会長
- 1994年 横浜市建築局技術管理担当課長兼企画局技術審査担当課長
- 1995年 横浜市都市計画局都市デザイン室長
- 1997年 東京大学大学院助教授
- 2000年 任意団体アーバンデザイン研究体(UDM)会長
- 2002年 横浜市参事

- 2003年 京都府参事
- 2005年 東京大学大学院教授
- 2006年 柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)長  
千葉県参事(柏の葉国際キャンパスタウン担当)  
NPO法人アーバンデザイン研究体(UDM)理事長
- 2007年 柏の葉イノベーション・デザイン研究機構構長・運営委員長
- 2008年 横浜アーバンデザイン研究機構(UDCY)代表  
田村地域デザインセンター(UDCT)長  
NPO都山アーバンデザインセンター(UDCKo)長/理事

#### ■受賞・表彰

- 1991年 日本建築学会設計競技「住み続けられるまちの再生」  
全国優秀賞「都市の糸」
- 2001年 台北総統府広場改造計画国際設計競技入選
- 2004年 中国新都市計画国際設計競技  
最優秀賞「陝西上林苑計画設計概念性方案」
- 2005年 岩手県大野村まちづくり功労者
- 2006年 日本グッドデザイン賞(横浜市のアーバンデザイン)  
千代田区まちづくり功労者

#### ■主な編著書

- ・未来社会の設計—横浜から環境空間計画を考える—(2008)
- ・都市のデザインマネジメント—アメリカの都市を再編する新しい公共体(2002)
- ・明日の都市づくり(2002)
- ・ある都市の歴史—横浜330年—(1986)

#### ■主な業績

- 横浜市時代:**  
歴代市長や歴代室長(北沢氏は5代目)とともに、市職員、アーバン  
デザイナーとして活躍。2006年には日本グッドデザイン賞金賞を受  
賞。
- 東大時代:**  
2005年、東京大学教授に就任。学問領域の融合による新しい空間  
計画学の確立をめざし、広域空間計画政策から生活の場づくりまで  
シームレスな「空間計画の描き方」や「今を知るための未来設計」を  
研究。
- 2006年より、研究組織、実施組織としてアーバンデザインセンター  
の設立活動をはじめ。現在4カ所、柏の葉、横浜、田村、郡山に設  
立されている。これは、大学、町内会、地元企業の新しい協働の形  
の姿である。(北沢猛HPより参照)

# 日本全国OB・OGめぐり 第四弾!! Lab's OB,OG Tour All Over Japan Vol.4

全国各地で活躍されているOB・OGの方々に、自らのお仕事・活動を紹介して頂くこのコーナー。第4回は文化庁文化財部参事官(建造物担当)付伝統的建造物群部門文化財調査官として活躍されている下間久美子(旧姓 栗林)さん(平成4年修了)です。

text\_abe

私は、現在、文化庁で伝統的建造物群保存地区(通称:伝建地区)の保護に関わる業務を担当しています。伝建地区の制度は、歴史的な集落・町並みを残したいとする住民の意欲と地元自治体の取り組みを支援するため、昭和50年の文化財保護法改正で制定されたものです。市町村の申出を受けて国が選定する重要伝統的建造物群保存地区は、平成22年2月1日現在、38道府県73市町村に86地区所在しています。

「都市デザイン」という視点で見れば、この制度は、歴史的風致としての一定のまとまりを有する地区において、住民の声をとりまとめ、その総意を都市計画及び文化財保護の両側面から政策上の手続きに乗せる手段を提供するものです。

また、伝建地区の決定において、住民の参加を

得て地区の歴史的特性の認識、保存の意義の確認、保存対策の検討等を行うことは、その後のまちづくりの基盤の形成につながります。伝建地区決定後は、毎年数件ずつ修理・修景を行い、歴史的風致の維持と回復を継続的に図りますが、この調整のための対話を通じて、また、成果が景観に現れるにつれて、人々の保存への関心も高まる傾向が見られます。

少子高齢化、空家の増加、災害対策等、どの地区も様々な問題を抱えていますが、保存を通して地区に関わる人々がその時々での社会的課題に立ち向かう動機と意欲をもち続けられるよう…そんな期待を制度にたくし、毎日の業務にあたっています。伝建地区にご興味のある方は、いつでもご連絡下さい。

## 第4回 下間久美子さん(東京都)



▲大学の頃に初めて訪れ、大学院の頃に深く関わった橿原市今井町(奈良県)。町並み保存とは何かを考える時は今でもこの町に立ち帰ります。

## M2卒業旅行記～のんびりグアム～ M2 Graduation Trip to Guam

M2 竹本 千里

修士2年の同期7名で、3泊4日の卒業旅行に行ってきました。修士論文から開放されて何も考えずにのんびりしたい!という同期全員のたつたの希望のもと、旅行先にはグアムを選びました。宿泊は都心から1時間も離れた山奥のリゾートホテルで、そのせいもあってか、殆どまちに繰り出すこともなく、出たとしてもただ海で泳いだりビーチバレーをしたりして余暇を満喫しました。個人的に驚いたのは、似たようなリゾート地であ

るホノルルと比べて、生活している人や建物、インフラなどにおいて、よりアジア色が強いことでした。同じアメリカの領土であるにも関わらず、場所によってこんなにも違いが出てくるのかと印象的でした。 そんなこんなであつたという間に4日間は過ぎ、現地の人並みにこんがり焼けて帰国、報告書などで忙しそうなお研究室のメンバーからの視線が痛い今日この頃です。



▲青空の下、解放の笑顔

## 中島直人先生のお便り Vol.2 Letter from Dr. Nakajima

イェール大学に留学中の中島先生に近況を知らせて頂きました

早いもので、アメリカ滞在も残すところ10日ほどになってしまいました。幸いこちらでも研究環境に恵まれ、満足のいく成果が得られたように思います。また数多くの都市を調査で訪れ、ついでにそれぞれの都市の魅力を存分に味わうこともできました。とはいえ、こちらに来て私が得た一番大きな財産は、ニューヘイヴンというまちとの、とても個人的な絆ではないでしょうかと思っています。私が滞在したのはわずか半年、秋から冬の決して晴々しいわけではない季節で、冷氣と降雪はかなりのものでしたが、そうした中で、このまちで確かに生活し、様々な人や風景と出会い、このまちのまちづくりの歴史や現在と自分なりに向き合ったことで、ニューヘイヴンは私にとって一つの愛すべき、懐かしい

まちになってくれたようです。

修士2年生をはじめとして、それぞれの旅たちの季節であるこの春は、私にとっても、18歳の頃には想像すべくもなかった15年に及ぶ東京大学を中心とした生活の終わり、そして日本でまた新しいまちと出会うことになるだろう新しい生活の始まりの季節になります。仕事や生活でご縁を頂いたまち、そうしたまちとの絆ひとつひとつを大切にしながら、記憶力の豊かなまちと人生を築いていきたい、今私はそういう心持でいます。

気付けば、ニューヘイヴンのまちから路傍の残雪が消えていました。このまちも今、春を迎えようとしています。



▲イェール大学で「納の浦」について講演



▲モントリオールにて研究室OBの張天新さんと再会

## 都市デザイン研究室 情報欄

お知らせ

3/23 (火)



柏の葉コミュニティフォーラム開催

センター

UDCK

## 北沢猛先生を偲ぶ会

日時: 3月23日(火) 18:30~20:30(受付18:00開始)

会場: 柏の葉アーバンデザインセンター[UDCK]

内容: 18:30~19:10 業績の紹介

19:20~20:30 Kサロン

※「北沢猛と柏の葉アーバンデザイン」展を同時開催

## 3月の予定

3月17日 足助PJ現地報告会

3月19日 佐原PJ現地報告会

3月23日 柏の葉コミュニティフォーラム

北沢猛先生を偲ぶ会@UDCK

3月24日 学位記授与式

追いコン@神田

3月25日 卒業式

text\_abe

今年度も終わりに近づき、どのPJも追い込みモード。息切れしないように、就職活動ともども頑張りたいものです。来年度は研究室にとっても大きな変化の年となるのではないのでしょうか?新入生は何人?不安半分、期待半分。北沢先生の遺志を胸に研究室を盛り上げていきましょう。